

地域で育てる文殊っ子

鯖江市片上小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	0回
地域及び家庭への学校公開日	14回(0回) 18日

(2) 地域人材の活用(のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	35人
授業ボランティア(含:低ボラ)	15人
登下校支援ボランティア	65人
その他(PTA行事への招聘)	6人

(3) 特色ある活動

テーマ「ふるさと教育」

具体的活動内容

① 文殊っ子応援団等の活用

地域の青少年健全育成協議会が組織する「文殊っ子応援団・まもり隊」や多数の高齢者クラブ員の参加による「はあとふるサポーター」等、地域の方々によって『守る』『教える』『助ける』活動を実施している。2月にY新聞社より紙面作成の依頼を受け、地域の紹介を6年生が企画することになった。地域の歴史を取材するため、地区のまもり隊の会長さん宅を訪問し、平家物語にも登場する武将について、お話を聞いた。完成した紙面は、6年生の卒業式当日発行され学校にも届く予定である。



＜地域の歴史を取材するために守り隊長宅を訪問＞

② 学校給食畑の運営



今年度、市から学校給食畑の事業指定を受け、地域の農家4名のサポートを受け作物を栽培してきた。地区のJAから借用した用地に「文殊っ子はあとふる農園」と命名し、じゃがいも・たまねぎ・にんにく・はくさい・大根・大豆・さつまいもなど季節に合わせた野菜を収穫し、学校給食の食材にも利用してきた。学校だけでは、手が行き届かない部分に支援を受けただけでなく、農

家自身の畑で穫れた野菜も給食用食材として提供していただいた。学校給食週間(11月21日)には4名の方を学校に招待して、地場産献立の給食を子どもたちと一緒に食べていただいた。



2 成果と課題

(1) 成果

地域からの情報を適切に把握し、緊急時を含めた学校運営に反映させることができた。また、地域の視点から必要な声かけや接し方を協議することで、子どもの健全な育成に対する支援意識が高まりより円滑な教育活動が可能となった。

(2) 課題

学校に対して大変協力的な地域性を生かして、子どもたちの学習や活動をより安全で上質なものにしていくために、地域人材の更なる活用も図り、取り組みを洗練していきたい。